

巴川水系河川整備計画原案に対する県民意見募集について

１．意見募集手続きの概要

河川整備計画の策定に当たって、県の「情報提供の推進に関する要綱」に基づき、下記方法により計画の原案を公表し、県民意見の提出手続きをとった。

（１）原案の公表及び周知の方法

- ① 静岡土木事務所、静岡土木事務所清水支所、静岡市役所での縦覧
- ② 静岡県及び静岡土木事務所河川改良課ホームページへの掲載
- ③ 県民サービスセンターなどでの縦覧
- ④ 住民意見交換会の開催（平成 20 年 8 月～9 月、計 11 回）
- ⑤ 静岡市広報紙に意見募集掲載
- ⑥ 静岡土木事務所、静岡土木事務所清水支所、静岡市役所及び流域内生涯学習交流センター等（7 箇所）で意見募集案内の配架
- ⑦ 流域内連合町内会長、自治会連合会長に意見募集案内を送付

（２）意見募集の期間

1 ヶ月間（平成 20 年 8 月 19 日～9 月 18 日）

２．意見の提出状況

ここでは、上記により提出された 24 名、55 件の意見を取り上げている。なお、1 回の発言や 1 枚のアンケートの中で、複数の意見が含まれているものについては、各々の意見を整理して取り上げることにした。

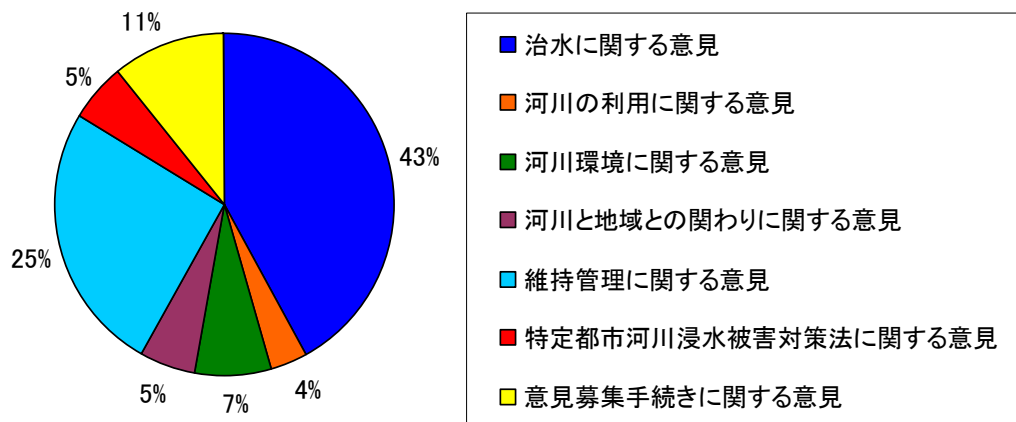
表 1 意見提出区分

意見提出方法	意見数
FAX、電子メール	2名
意見交換会発言	22名
合計	24名(55件)

３．提出された意見の整理

表 2 意見分類

	治水	河川の利用	河川環境	河川と地域との関わり	維持管理	特定都市河川法	意見募集手続き
意見交換会	20	2	3	3	14	3	6
FAX、電子メール	3	0	1	0	0	0	0
合 計	23	2	4	3	14	3	6



提出された意見について、分類別に整理し、代表的な意見を下記にまとめる。

● 治水に関する意見

- ・ 最近の全国各地の豪雨で 100mm/hr を超える豪雨が発生し、巴川流域では七夕豪雨で 84.5mm/hr の雨が発生しているので、河川整備計画の目標は 63mm/hr より大きくするべきではないか。
- ・ 最近では、浸水被害が減少しているので、麻機遊水地の整備は不要ではないか。
- ・ 過去の災害は長尾川の破堤が被害を大きくした原因なので、長尾川の対策を行うべきではないか。
- ・ 流出対策として、各家庭に雨水を貯留する施設を設置すればよい。
- ・ 山にダムを建設したらどうか。
- ・ 清水港の改修により、折戸湾の開口部が狭くなったため、巴川の水が流れにくくなっているのではないか。
- ・ 麻機遊水地第 2 工区について、もっと詳細に説明が欲しい。
- ・ 麻機遊水地は、もっと早く整備するべきだった。

● 河川の利用に関する意見

- ・ 堤防道路を拡幅して、有効利用を図るべき。
- ・ 堤防道路は自動車が通行すると危険であるので、何か良い方法がないか。

● 河川環境に関する意見

- ・ 最近、巴川の水が汚れてきていると思うが原因は何か。
- ・ 既設の遊水地は殺風景なので、第 2 工区は環境面の整備もして欲しい。

● 河川と地域との関わりに関する意見

- ・ 遊水地の中を公園としてきれいに整備すれば、ゴミの投棄が減るのではないか。
- ・ リバーフレンドシップ制度のこれまでの実績はどうか。

- 吉田川の川の中を除草したいが、川に下りるところがない。
- 意見募集手続きに関する意見
 - 意見交換会の開催は良いことだと思うが、もっと PR をして人を集めるべきである。
- 維持管理に関する意見
 - 老朽化した護岸、パラペットを補修して欲しい。
 - 堤防の除草をお願いしたい。
 - 老朽化した橋梁があり、危険であるので補修して欲しい。
 - 麻機遊水地周辺でカモの食害が発生しているので、対策をお願いしたい。
- 特定都市河川浸水被害対策法に関する質問
 - 駐車場を整備する場合、雨水貯留浸透施設の貯留容量はどのくらい必要になるのか。
 - 現在、開発中の箇所も法の対象になるのか。

4. 意見に対する県の考え方、対応

前章で意見分類した代表的な意見を取り上げ、その意見に対する県の考え方や対応をまとめる。

● 治水対策に関する意見

最近発生している豪雨では、8月に岡崎市で 146.5mm/hr、富士市で 111.5mm/hr、9月5日に大阪堺市で 93.5mm/hr と報道されている。巴川水系河川整備計画では河川整備の目標は 10 年に 1 回発生が予想される 69mm/hr としているが、巴川流域でも七夕豪雨では 84.5mm/hr を記録している。河川整備計画の目標は 63mm/hr より大きくするべきではないか。

【意見への対応】

巴川では七夕豪雨を契機に、将来計画（概ね 50 年に 1 回発生する降雨）への対応を目標として段階的に整備を進めており、現在、概ね 10 年に 1 回発生する降雨を対象に整備を実施しています。

河川の整備には莫大な事業費と時間がかかるため、初めから将来計画を目標に整備すると、全体が完成するまでに時間がかかり、その間、未完成の区間が長く残されてしまいます。

将来計画 93mm/hr（概ね 50 年に 1 回発生する降雨）を目指して、流域全体の治水安全度を段階的に上げていくため、今回の河川整備計画では 69mm/hr（概ね 10 年に 1 回発生する降雨）を整備目標としています。

大谷川放水路ができてから、浸水被害が減ったと思うが、麻機遊水地第 2 工区は必要なのではないか。

【意見への対応】

巴川では、昭和 30 年代からの流域の市街化や七夕豪雨による甚大な被害を契機に、総合治水対策事業を導入し、流域一体となって洪水被害の軽減を図っています。

昭和 57 年度に策定された「巴川流域整備計画」では、時間雨量 58mm（概ね 1/5 年超過確率）の降雨に対する安全度の確保を目標に、河川改修、大谷川放水路、麻機遊水地第 3 工区、第 4 工区の整備や雨水貯留浸透施設の設置、流域の保水・遊水機能の保持などによる治水事業を実施しました。

現在は、平成 11 年度に策定された「巴川新流域整備計画」により、時間雨量 69mm（概ね 1/10 年超過確率）を整備目標にあげて、麻機遊水池第 1 工区、第 2 工区、大内遊水池の整備、大谷川放水路の護床工整備、雨水貯留施設による流出抑制対策（保水地域での目標貯留総量 86 万 m³）を進めており、着実に整備を行っています。

しかしながら、平成 15 年 7 月豪雨や平成 16 年 6 月の豪雨では、流域の各地で内水による浸水被害が発生し、家屋浸水や主要幹線道路の冠水などが生じ、社会活動に大きな影響を及ぼしました。

また、巴川流域は、交通網などの社会基盤の整備とともに市街化が進み資産も蓄積しており、想定氾濫区域内の資産密度は約 640 億円／km²に達し、県内の他の河川と比べて突出しています。巴川本川及び支川ではひとたび氾濫し、堤防が破堤すれば、社会的・経済的に甚大な被害を引き起こす恐れがあり、近年、集中豪雨が多発する傾向を踏まえると、今後も整備を進めていく必要があると考えています。

河川整備計画 p29～36

巴川の流域面積、想定氾濫面積、想定氾濫区域内の人口及び資産を考慮すると、概ね 1/50 年超過確率の整備が必要と考えており、将来の目標である河川整備基本方針では、時間雨量 92mm を整備目標に掲げています。

七夕豪雨では、長尾川が破堤して巴川に水が入り、巴川が溢れ被害が大きくなったと知っているが、長尾川には遊水地はつくらないのか。また、近年長尾川の河床が上がっている。巴川と併せて長尾川が決壊した時には被害が大きいと思うので、河床掘削を行って欲しい。

【意見への対応】

長尾川は、川底が周辺の地盤高より高い天井川であるため、地形的な問題として水を貯める適地がありません。かつては上流側にダムの可能性について検討しましたが、適地がありませんでした。遊水地の建設地として、流域としてもともと低地の麻機地区は水が集まるところでありますので、麻機地区が適地と考えています。

また、長尾川は、七夕豪雨の後、災害復旧工事により改修されております。長尾川は堤防が決壊した場合、大きな被害が想定されることから、堤防の点検を実施し、悪い所は補修するなど今後も適切な維持管理を行っていきます。

河川整備計画 p74

流出対策として、各家庭に雨水を貯留する施設を設置すればよい。

【意見への対応】

住宅等の敷地へ雨水貯留浸透施設の設置や下水道の整備により不用になった浄化槽を雨水貯留施設に転用する場合、その費用の一部を静岡市が助成する制度があります。

今後、制度の普及に積極的に協力していきます。

河川整備計画 p38

治水対策として、山にダムを建設したらどうか。山間部を農用地に利用すれば、農業として効果もあり、農業自給率も上がる。

【意見への対応】

巴川上流でダムを建設する計画はございません。

巴川は、比較的上流まで市街化されており、ダム建設の候補地となる谷もないことから、適地がありません。また、ダムをつくったとしても、集水面積が麻機遊水地地点よりも小さいため、洪水を調節する効果が見込めません。

巴川の治水方式(改修方式)の選定に際しては、ダムによる洪水調節方式も比較検討しておりますが、現在の河道改修、放水路、遊水地の組み合わせが最適と判断しています。

また、巴川流域の利水については、大沢川や山原川の上流には溜池があり、水をとっておりますが、巴川から直接水をとっている事例は、流域の市街化が進んでいるため少ない状況であり、利水目的からもダムの必要性はないものと認識しています。

食料自給率の問題は農業施策の中で議論すべき重要な問題であり、ご意見として承ります。

小学校のグラウンドに雨水を溜めると、地震等の災害時には避難場所として使用したいため、降雨時に使用できないと困る。雨水貯留と避難場所と両方使える事を考えて欲しい。

【意見への対応】

校庭への雨水貯留施設の設置について、避難所等の課題は把握していますが、頻繁に発生する洪水に比べ想定する大規模地震は確率的に頻度が少ないということで、校庭貯留などを整備していますが、問題意識は持っています。今後、非常時に対応できるよう検討していきます。

以前の巴川は安倍川からも水が入っていたと思うが、今は安倍川からの水は入っていないので、巴川の洪水量は減っているのではないか。

【意見への対応】

江戸時代には、徳川家康が駿府城や城下町を洪水から守るよう安倍川を堤防で制御したことにより、巴川の平常時の水量は減少しました。

巴川は麻機から海までの高低差が小さく河川縦断勾配が極めて緩いため、周辺の耕地がたびたび冠水したことから、古くより流域の村々をはじめ、官民両者により浚渫工事が繰り返されてきたとの記録があります。

洪水量については、定量的な比較ができませんが、流域の市街化とともに、昔よりも洪水時に一気に流れ出る水の量は増えています。

10年くらい前に駒越地区の水を直接、駿河湾に流す放水路計画があったが、なくなってしまった。清水港の改修により、折戸湾の開口部が狭くなったため、巴川の水が流れにくくなっている。なぜ、放水路計画がなくなってしまったのか。

【意見への対応】

巴川の治水計画上、そのような計画はございません。

巴川の河口における川幅に対して、清水港はかなり大きいため、巴川の排水の影響はないと判断しています。

なお、治水計画(河道計画)では、河口部の潮位を考慮しております。

麻機遊水地第2工区は、自然再生の立場から水田の形で遊水地機能を持たせるのが、これからの新しい方向だと思う。

【意見への対応】

遊水地内を水田として残す方法ではありますが、遊水地内で水田を続けていただけるよう、地権者の皆様のご了解が前提となります。麻機遊水地第2工区については、今後、地権者の皆様からの要請に基づき検討してまいります。

静岡市は「洪水ハザードマップ」を公表しているが、防災における情報の提供、教育だけでなく、もう一歩進んで、リスクの高い地域の開発の制限を行う必要があると思う。治水工事が進めば進むほど、その周囲が宅地化されていくのでは、想定外の雨が降った場合はどうなるのだろうと危惧している。川があふれることを想定し、低地にこれ以上人が住まないような対策も同時に進めて行くことが必要と提言する。

【意見への対応】

総合治水対策として流域対策を実施しており、現状では大規模開発について調整池の設置指導を行っています。今後は特定都市河川浸水被害対策法の適用により、防災調整池の設置が義務化されるよう、対策を強化していきます。

● 河川の利用に関する意見

堤防道路は、車道として扱うのか。危険なため、何か方法はないか。

【意見への対応】

管理用道路は、河川管理のためのもので、一般車両の通行に供するものではありませんが、狭い地形の中、地域の人々が利用するために、静岡市の市道として占用を許可している区間もございます。一般車両により歩行者が危険という箇所がありましたら、道路管理者及び地域の方とお話をさせてもらい、対策や指導を考えていきます。

堤防道路は狭い部分があるため、広げて 2 車線あれば有効利用できていいと思う。

【意見への対応】

堤防道路は河川管理用道路を静岡市が占有して市道として使用しているのが現状です。ご指摘のどこの場所か特定できませんが、河川管理者が堤防道路を拡幅する計画はありません。また、巴川沿いには民家が隣接しているため、堤防道路を拡幅するのは難しいと考えます。

● 河川環境に関する意見

遊水地の現状を見ると殺風景である。これから第2工区を整備して池になると、治水の点では良いと思うが、自然豊かなところですので環境面の整備をお願いしたい。

【意見への対応】

現在、自然再生協議会を組織し、「巴川流域麻機遊水地自然再生事業実施計画」を策定中です。市民団体や地元の方に集まっていだいて麻機遊水地の自然環境をどうやって守っていくのかを考えています。昔、沼地だったところを田んぼにし、遊水地のために掘り返した結果、貴重な植物が見られるようになりましたが、手をかけていかないと強い植物に負けてしまうため、地域の皆さんとの協働により維持、保全に努めます。

また、麻機遊水地第1工区、第3工区は、今後、市による公園整備が行われる予定です。

第2工区においても環境や利用の面で、地域の皆様の意見を聞きながら将来像を検討してまいります。

最近、巴川の水が汚れてきている。原因が何か。

【意見への対応】

昭和 30 年代以降に都市化が進み、住宅や工場の排水により水質が悪化したと思われますが、近年は、河川の浚渫や下水道が普及し、水質調査では環境基準をクリアしており、改善傾向にあると認識しております。

河川整備計画 p43

排水等により、特定の場所で水質が悪化している箇所があればご連絡ください。

麻機遊水地第4工区でダイオキシン対策工事を計画していると思うが、いつ頃から始めるのか。

【意見への対応】

現在、矢板で囲った区域について、H20 年 10 月から試験施工を実施しています。H21 年度以降に本格施工の予定です。

● 河川と地域との関わりに関する意見

遊水地内に雑草等が繁殖しているため、ゴミが捨てられているのが現状で、もう少しきれいにならないかと思う。閉め切るのではなく、公園として、例えば藤枝の蓮華寺池公園のような整備をして、人が使用するようになればゴミは減ると思う。

【意見への対応】

ごみの問題については現在、NPOの方々が、ボランティアで週2回パトロールして連絡して頂き、ゴミを処分しているところです。また、NPOの方々が中心となって、美化活動、クリーン作戦を行っていただいております。

市の公園整備については麻機遊水地第1工区を平成22年から3年かけて整備し、その後3工区の整備と聞いております。県として、市と協力して、いっそう啓発活動に勤めたいと考えておりますので、引き続き、皆さんにもご協力をお願いします。

リバーフレンドシップ制度は平成15年に制定されたと聞いているが、これまでの実績はどうか。

【意見への対応】

県下では、昨年度までに117箇所ではリバーフレンドシップの締結が行われており、今年度に入り、さら増えています。

巴川流域では、4つの団体の団体と同意書を締結しています。麻機遊水地第3工区、第4工区(唐瀬)、上土、山原川の4箇所でご協力を頂いています。

地元で堤防の除草をするのに、吉田川の川の中を除草したいが、川に下りるところがない。

【意見への対応】

高齢化のため、危険で地元では除草できないというような場所もあると思いますので、お話をさせてもらいながら協力してやっていきたいと考えています。

● 維持管理に関する意見

- ・ 老朽化した護岸、パラペットを補修して欲しい。
- ・ 堤防の除草をお願いしたい。
- ・ 老朽化した橋梁があり、危険であるので補修して欲しい。
- ・ 麻機遊水地周辺でカモの食害が発生しているので、対策をお願いしたい。

【意見への対応】

ご意見をいただいた箇所現状を確認し、対応が必要な箇所については、関係する機関と協力し、対応していきます。

● 意見募集手続きに関する意見

意見交換会を開催するのは良いことだと思うが、今回の出席者が少ないため、もっとPRをすべきだ。

【意見への対応】

意見交換会開催にあたり、市の広報、県のホームページに掲載、生涯学習交流館（公民館）にチラシを配布しました。整備計画とともに麻機遊水地第2工区の整備について地権者説明会を6月3日、23日、8月4日から4日間おこなっておりまして、多くの出席者がいらしたので、関心も高いとの認識もあったのですが、今回の参加人数の少なさを、今後のさまざまな情報発信における教訓とし、改善していこうと思います。

● 特定都市河川浸水被害対策法に関する質問

駐車場を作る場合、雨水貯留浸透施設の設置が義務化と記載されているが、貯水量について規定があるか。それは、何 m^3 か。

【意見への対応】

田畑を駐車場にする、未舗装の駐車場をアスファルトで舗装する等、舗装する土地の状態によって必要とされる貯水量は異なりますが、地面に雨水がしみこみにくくなる状態に変えようとする場合、雨水貯留浸透施設の設置が必要となります。

特定都市河川浸水被害対策法は、現在開発している所は対象になるか。

【意見への対応】

特定都市河川の指定時に、すでに着手している行為は、既着手行為として許可の対象外となります。また、既着手行為の変更についても、許可の対象外となります。